季刊 文化経済学会
No.65
Vol.17 No.1
2008.6.5
ISSN 0918-3787
Japan Association for Cultural Economics

文化および芸術市場における競争

慶應義塾大学経済学部教授
山田太門

文化は様々に論じられるが、結局は語源にあるように自分の畑を耕すことに回帰するのではなかろうか。以下にその意味を探ってみよう。

およそこの世のすべては競合と共生の関係で結ばれている。財やサービスが取引される民間の経済市場では商品が互いに競合しあうばかりと思われがちであるが、この市場では競合と共生が絡み合っている。市場で売買されるどんな商品も実は人々の生活の文化的な営みの中で消費されている。したがって商品の中には文化が組み込まれていると言っても過言ではない。そのため商品は単に商品として消費されることは稀で多くの場合商品の塊、文化的に意味のある集合として消費される。したがって競争市場といっても互いに補完的な財は共生の関係にある場合が案外に多いのである。その意味で経済市場における競争は非常に複雑な様相で繰り広げられる。経済市場は文化の背景なしには成り立たない。そのため経済市場は内部の商品間はともかく市場自体と文化（市場）がライバル関係ではなく共生関係にある。商品どうしの競争は単に市場での価格競争で終わらず勝負は商品の質に関係する文化の競争に持ち込まれる。生産企業が自社の製品のイメージを改善する広告に多額の投資をしたり、スポーツやお祭りや芸能など文化的活動を競って支援したりする。もっとも芸術は創造性のゆえ、文化ほど安定したものでなくリスクを伴う特殊な活動であるから、経済市場で生産される商品が芸術そのものに直結するというケースはそう多くはない。その意味で芸術はやや特殊な世界と考えられる。一般に文化や芸術の活動は非営利で行われる。それは経済市場と異なって行動の原理が利潤の最大化ではないという意味である。

そのため文化・芸術の分野では競争がないと誤解されることが多い。ところが営利でないにも拘らず芸術や文化の活動には激しい競争がありうるというのが私の主張である。その競争は制作される作品がいかに多くの人々にいかに大きな興味や感動を与えるかという競争である。市場における商品生産の競争とほとんど変わりはない。この競争の誘因については２つの解釈が可能である。

１つは芸術や文化の活動が経済市場との密接な関わりをもつが故に、経済市場での競争のために芸術・文化で競争が起こるという解釈である。つまり経済的な利得を求めて文化で競争したり、芸術家が経済的な成功を目的に競争したりする様相に当たる。文化の領域まで市場経済が浸食することは一見したところ文化の堕落であり文化の価値を低落させるように感じる傾向があるが、文化や芸術の生産に競争が働いているかぎり絶えざる創作努力が続けられるはずであるから、それ自体として決して否定的に考えられるべきではない。芸術を適切に評価するプロセスはなかなか確立し難い。したがって市場は完全ではないにしても、その代替プロセスの役を果たすことができる。例えば観客は舞台芸術の専門家ではないから信頼に足るものではないが、専門的でないが故に自由にして公正な批評家になり得る。優れた演技は観客を引き付けるし、拙い技では客をごまかすことができない。その意味で観客動員数や入場者数は売上高を通じて芸術での競争のインセンティヴを作り出す。観客や入場者の数に意義があるわけではないが、それによって演者に競争心が生まれることに意義がある。

もう１つの解釈は文化や芸術という人間の行為は、それに伴う金銭的な利得を離れても競争が起こるという考え方である。芸術の目的は既存のものにない独自の斬新さによって人の心を引き付けることである。文化の中でも芸能やスポーツなどはこれに近い。いわば競争自体がこれらの活動の宿命であって、決して経済的利得に依存しているわけではない。創造性はそれ自体競争であって、この場合の競争は他人との競争ばかりでなく旧い自分と

の競争にもなる。作品どうしが競合していると言ってもよい。この状況では経済学の原理が働く。経済学では行動がある所には必ず費用（犠牲）が発生する。この鉄則は創造性を命とするあらゆる芸術にも貫徹する。つまり1つの芸術上の表現は表現しすぎると反作用を及ぼし、ある度を過ぎると折角得られた観客の感動を削ぎはじめる。作品どうしの競争に勝つにはこの微妙なバランスを習得しなければならないだろう。経済学と言うと欲求の最大化ばかりが注目されるが、その裏側に人間の行為における抑制が必要とされることを見落としがちである。特に芸術や文化では、経済活動に特有な規模や集積の利益を利用した集団的な拡大指向とは反対に、個々の主体の個別性が重要であり、作品の要素は作者の意図を超えた偶然の作用さえ受ける。こうした活動に携わる人々は孤独に耐えて自分を磨かねばならない。競争を最後に乗り切るには個性を大切にするしかないだろう。

文化経済学は文化や芸術市場における競争を尊重し、ある時には営利的に、またある時には非営利的にもなりうる活動主体をして、常に適度な競争状態に保ち、各自が自分の畑を黙々と耕して、新しい作物の品種改良に努めることのできるような環境造りに励まなければなるまい。

NEWS *for Cultural Economics*

2008年度研究大会の詳細が決定！

3分科会／12セッションのプログラム内容

2008年度研究大会の詳細が決まりましたので、お知らせいたします。多数のご参加をお待ちしております。

●

大会期日 **2008年7月4日(金)・5日(土)・6日(日)**

会場 北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟
＜通称W棟＞（北海道札幌市）

大会テーマ **地域の繁盛は文化から**

参加費 会員2,000円、非会員4,000円、学部生2,000円
（学部生は受付にて学生証をご提示ください／大学院生除く）

写真左：大通公園とさっぽろテレビ塔
写真右：国指定重要文化財の旧道庁
（赤レンガ庁舎）

プログラム概要

※「発表タイトル」、発表者／共同発表者名、〔討論者〕の順で掲載しています。

分科会① 7/5(土) 10:00～12:00	**①-A 活動分析Ⅰ** ●座長：川崎賢一
	「アートNPOの現状と課題―運営者意識調査の分析から―」**中川千恵子**〔山田太門〕
	「文化産業の発展要因に関する考察―創造性人材の活動分析を通して」**上野信子**〔山田太門〕
	「学生の実演芸術の鑑賞行動を規定する要因についての基礎的分析」**有馬昌宏**〔勝浦正樹〕
	①-B アメニティ・税制・評価 ●座長：小林好宏
	「NPOによるアメニティ保全の制度的課題―英日ナショナル・トラストの比較分析から―」**藤谷岳**〔北村裕明〕
	「キジムナーフェスタの評価分析―その文化的・社会的・経済的価値の視点から―」**勝村（松本）文子／後藤和子／田中鮎夢**〔友岡邦之〕
	「政策課税としての文化税制―その理論的根拠と望ましいデザイン」**後藤和子／則本浩佑**〔北村裕明〕

	①-C 表現と創造性 ●座長：佐々木晃彦
	「現代日本における身体表現活動の意義と〈からだ気づき〉プログラムの検証について」**竹田舞**〔尼ケ崎彬〕
	「紐帯としての＜布＞～祭礼における＜布＞の役割と表現の日韓比較表現～」**李粉善**〔若松美黄〕
	「「創造の場」実践事例の発展プロセスについての考察」**萩原雅也**〔尼ケ崎彬〕
	①-D 事例報告Ⅰ ●座長：野田邦弘
	「地域固有の民話にもとづく市民参加型舞台芸術創造の意義と課題 『まれびとエビス～紫川物語～』への参与調査を通して」**李俊／藤原恵洋**〔松本茂章〕
	「市民ミュージカルの地域連携～(財)高知市文化振興事業団の活動事例から～」**尾崎正敏／大家賢三**〔松本茂章〕
	「オリジナルミュージカル『卑弥呼』2007全国公演を通した、汎地域型アートマネジメントの意義に関する考察」**三木弘和**〔松本茂章〕
分科会② 7/6(日) 9:30～12:10 ※②—A・Dは11：30終了	**②-A 都市再生・まちづくり** ※9：30～11：30終了 ●座長：佐々木雅幸
	「「創造性」の観光への導入による都市経営の効果性に関する考察 Interdependency between Creativity and Urban Tourism」**浅村晋彦**〔古池嘉和〕
	「1970年代における地方自治体の「文化行政」と「まちづくり」の関連について～歴史的考察～」**梅原宏司**〔鈴木茂〕
	「工業都市の知的財産（資源）形成と知識人「明治～昭和戦前期の新居浜市訪問者を中心に」」**森賀盾雄**〔鈴木茂〕
	②-B 文化政策 ●座長：片山泰輔
	「現代美術アワードの変遷と展開—企業による1990年以降の事例を中心に—」**平田雅**〔熊倉純子〕
	「米国連邦政府機関における芸術振興：ケネディ舞台芸術センターにおける国際プログラム戦略を通して」**小島レイリ**〔河島伸子〕
	「出版における構造変容と公共政策」**岩本洋一**〔河島伸子〕
	「"Agenda 21 for culture"に関する研究～国際機関が提唱する都市（地域）文化政策の参考文書～」**太下義之**〔小林真理〕
	②-C 事例報告Ⅱ ●座長：根木昭
	「文化遺産等のCG再現とそれを活用した地域振興について—藤原京のCG再現を事例として—」**片岡英己／谷口知司**〔中谷武雄〕
	「世界遺産に登録された「石見銀山遺跡」の意義 人力で開発・採鉱され、そのまま保存された」**近藤太一**〔中谷武雄〕
	「祭りと民俗芸能を活かしてビジット・ジャパンを考察する 外国人に見せたい日本の原風景」**中坪功雄**〔中谷武雄〕
	「老朽化公共ホールの再生に向けた市民参加型基本構想の検討～福岡県八女市町村会館・八女市中央公民館の地域交流センター化へ向けたよみがえり市民フォーラム等を通して～」**藤原恵洋**〔中谷武雄〕
	②-D 事例報告Ⅲ ※9：30～11：30終了 ●座長：衛紀生
	「公立ミュージアムの広報・広告活動とその研究動向」**伊藤大介**〔松田芳郎〕
	「音楽事業を評価する視点—PMFを事例として—」**朝倉由希**〔松田芳郎〕
	「舞台芸術に対する需要拡大要因の分析—札幌交響楽団の場合—」**小林好宏**〔松田芳郎〕

分科会③ 7/6(日) 13:50～15:50 ※③-B は 16：30 終了 ※③-D は 15：10 終了	**③-A 活動分析Ⅱ** ●座長：山田太門
	「サービス業基本調査による文化芸術産業の詳細産業分類による分析」 **勝浦正樹／永山貞則／松田芳郎**〔山田浩之〕
	「日本の芸術家の地域分布と所得水準の変動：1986 ― 2006 年」 **周防節雄／永山貞則／松田芳郎**〔山田浩之〕
	「International Cultural Exchange and Economic Impact」**八木匡**〔阪本崇〕
	③-B 地域と文化教育機関 ※ 13：50 ～ 16：30 終了 ●座長：端信行
	「地域データを利用した劇場分類法の提案」**坂部裕美子**〔清水裕之〕
	「フィールドミュージアムにおける RFID を活用したデジタルアーカイブ」 **坂本洋代／谷口知司**〔佐々木雅幸〕
	「カルチュラル・ツーリズムの可能性――美術館の集客効果と地域経済への影響」**西孝**〔佐々木雅幸〕
	「リージョナル・イノベーション・システムと芸術系大学の役割―地域のイノベーション能力と創造的生活者―」 **本田洋一**〔片山泰輔〕
	③-C コンテンツと経済 ●座長：加藤種男
	「戦後日本におけるヒット曲（流行歌）の調性、楽式、と経済状況（景気動向）の関係」 **保原伸弘**〔増淵敏之〕
	「日本型コンテンツ産業システムについての一考察」**小山友介**〔増淵敏之〕
	「事例研究に見るコンテンツファンドによる投融資の役割と課題：産業界活性化のために求められる機能」 **助川（松島）たかね**〔太下義之〕
	③-D 事例報告Ⅳ ※ 13：50 ～ 15：10 終了 ●座長：藤原惠洋
	「地域活性化を戦略的に推進するための取り組み―文化と経済の関係研究から応用へ―」 **阿思根**〔後藤和子〕
	「10 周年を迎えたパリ日本文化会館の活動」**松本茂章**〔後藤和子〕

シンポジウム 地域の繁盛は文化から
～文化と地域の持続的経営を求めて

期日 7 月 5 日(土) 14：00 ～ 16：30

会場 クラーク会館 講堂

パネリスト 磯田憲一・松岡市郎・久保俊哉・斎藤千鶴

コメンテーター 小林真理

コーディネーター 伏島信治

●

主催 文化経済学会＜日本＞、北海道大学大学院 文学研究科

後援 北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道新聞、毎日新聞北海道支社、朝日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、日本経済新聞社札幌支社、NHK札幌放送局（申請中）、北海道放送、札幌テレビ放送、北海道文化放送、北海道テレビ放送（申請中）、テレビ北海道

札幌大会●閲覧用書籍の募集

札幌大会では、会員が著者・編者・訳者となっている書籍・報告書・論文などを多くの方にご紹介したいということから、閲覧コーナーを設けることになりました。閲覧用の書籍を募集しますので、多数の書籍のご提供をお待ちしております。

＜募集要項＞

①会員が著者・編者・訳者などであり、文化経済学に関係のある書籍・報告書・論文に限ります。

②当日会場に持参および持ち帰りができること（当日会場受付の「閲覧本受付」にお渡しください）

③書籍情報カード（60 部～）を作成し、クリップ留めして添付してください。

■書籍情報カード

サイズ：縦 7.5 cm×横 10.5 cm、A4 を 8 等分したサイズ

（紙質は問いません）

内容：後日、書籍を購入および入手できる情報を掲載してください。

例：書名・著者・発行所
　　発売元・ISBN・価格

※書店を通さない書籍でも構いません。その場合には、入手できる方法をお書き入れください。

※非売品の場合には、表紙に「非売品」とお書き入れください。

※閲覧される方は奥付などをメモしている時間がないと思われますので、書籍情報カードを添付してくださいますようお願いいたします。

④破損・紛失などは責任を負いかねますので、ご了承ください。大会終了後、会場に残っていた場合は返却いたしません。

（論文・自費出版物など1冊しかないものは、コピーをご提出くださいますようお願いいたします）

会費納入のお願い

新年度となりましたので、2008年度会費（個人1万円／団体10万円）の納入をお願いいたします。振込用紙は『NL.65』に同封しておりますので、どうぞご利用ください。（再発行はいたしませんので、ご了承ください。紛失された方は、ゆうちょ銀行窓口にある用紙をご利用ください。）

口座　郵便振替 00150-6-606423
文化経済学会＜日本＞

※退会希望の方へ：会費をお支払いにならないだけでは退会の扱いとはなりません。FAX・郵送・e-mailにて、退会届をご提出ください。理事会での承認を経て、正式に退会となります。

退会届：①氏名、②会員番号、③所属、④連絡先、⑤退会理由

INFORMATION

◉学会誌「文化経済学」編集委員会より

「文化経済学」は、年2回発行され、年2回の区切りで投稿論文を受け付けています。

		第6巻3号	第6巻4号
締切	論文エントリー	2008年7月末	2009年1月末
	論文提出	2008年9月末	2009年3月末

＜応募＆掲載条件＞本学会員に限られます。掲載には、査読委員の審査を経て掲載が妥当と認められること、掲載料をお支払いいただくことが条件となっています（2ページ毎に6,000円、ただし、50部の抜き刷りを配布いたします）。

＜応募方法＞FAX、e-mail、郵送のいずれかで、右記7点を事務局までお送りください。

①応募日付、②応募者名、③会員番号、④所属、⑤タイトル、⑥論文要旨（400字程度）、⑦応募者連絡先

＜応募にあたっての留意事項＞

- 過去の研究への言及と、従来の研究の流れの中での自己の研究の位置づけ、または独自性が明確になっていること。
- 論証や実証に必要な文献・資料の参照が行われていること。
- 歴史的事実等については、事実が正確であるかどうかの確認を行っていること。
- 応募する論文は未公表のものであること、また、他の学術誌等への投稿の予定がないものに限る。
- 提出方法・原稿の形式などの詳細は、文化経済学会ウェブサイトをご参照ください。
  http://www.jace.gr.jp/bosyu.html